

年間第2主日

福音朗読 ヨハネ 1・29-34

2023.1.15

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

もう20年か30年前になるかもしれませんが、NHKで日本全国の100歳の方をアナウンサーが訪ねていくっていう番組がありましたね。そう言われてみれば、って感じですよ。で、担当していたアナウンサーの人が、これもだいぶ前なんですけど、ラジオで、その番組の思い出を話しているというときがありました。で、鹿児島の方の100歳のお婆さんをお訪ねしたときにすごく衝撃を受けた思い出があった、ということなんです。そのお婆さんの日課は近所の神社に毎日出かけて行ってお祈りする、そういうものだったんですけど、テレビだから、大体、お祈りしていたら「何をお祈りするんですか」って、決まり文句っていうか、聞きますね。で、その返って来た答えにとっても驚いた、と。なんだと思います？ アナウンサーの人はお婆さんが毎日神社にお祈りするから、例えば「健康で長生きできますように」とか、そういう答えが返って来るのかなあと予想していたら、返って来た答えは、「何か間違っていることがあったら教えてください、直しますから」って、そういう答えで、100歳の人生をずうっと生きてきたその人が、それでもまだそういうお祈りをするのかってことに衝撃を受けたってことなんです。わたしたちもそういう心で神の前に立つっていうことが、宗教は違えど、大切なんじゃないかなと、わたしもそのお話を聞いてて思うんです。

そもそもキリスト教で「罪」って言うときには、皆さんも聞いたことがあると思いますけども、的が外れているっていう、そういう状態なんだって言いますよね。そういう意味では、間違い、わたしたちが進むべき方向、求めるべき幸福、それを間違えてしまっているがゆえに自分自身に苦しみをもたらす、また他の人に苦しみをもたらす、また他の人が間違えているがゆえにもしかしたらわたしたちのほうで苦しんでいる、そういうようなこともある。それを全部ひっくるめて、キリスト教的には「世の罪」って言いますね。だから、一人ひとりの間違いだし、また自分の間違いだし、他の人の間違いだし、それが全体で、誰のせいって言うことじゃないけど、そういう間違いの中で進んでしまった社会の中で、いろいろ一人ひとりの人間の苦しみ、そういう絡み合ってしまったいろいろな苦しみがある、ということです。

それを、今日の福音の中で、イエス様は「世の罪を取り除く神の小羊」なんだって洗礼者ヨハネが示している。洗礼者ヨハネがその通りの言葉を歴史的に言ったっていうよりは、むしろ、洗礼者ヨハネっていうのは旧約聖書全体を象徴する人物ですから、洗礼者ヨハネはイエス様のことを正しく理解していたんだ、そして、聖書全体もちゃんと読めばイエス様が救い主だと分かるはずなんだ、っていうのがヨハネの福音書の一つのテーマですから、「世の罪を取り除く神の小羊」っていうイエス様に向かっての言い方は、後の時代のイエスの弟子たち、あるいは信者たちの信仰告白——今のわたしたちもミサの中で出てきますね、「世の罪を取り除く神の小羊 いくしみをわたしたちに」って言いますね——信仰告白と言えます。

だから、そこに出て来る「世の罪」っていうのは、神様を怒らせているとか、そういうようなことじゃなくて、一人ひとりが、そして人類全体が間違っていることがあるがゆえにお互い同士が苦しめ合って、自分自身にも苦しみを引き寄せているという状態を表わしているという理解していいですね。

でも、もう一つ大事なことは、それを取り除いてくださるイエス様は神の小羊なんだ、ということです。神様であり、その神様が小羊なんだ、と。小羊ってのは生贄いけにえの小羊ですね。自分自身が罪を背負って屠られる、死ぬ、そういうかたである。つまりは、わたしたちの間違いを正すのに、イエス様が玉座に座って「そっちじゃないぞ。こっちに行け」って高みから命令する、そういう神様じゃないんですよ、という意味も入っています。むしろ一人ひとりの苦しみをご自分のこととして担い、そして、そのイエス様の苦しみにわたしたちが影響を受ける、感化されることによって、わたしたちの歩む方向を一緒に正していこうとされる。自分自身が苦しまれることでわたしたちの間違いを教え、そして一緒に間違いを正していただくかたなんです、ということをおわたしたちは信じる。それが一言で言うと「世の罪を取り除く神の小羊」、イエス様は「世の罪を取り除く神の小羊」なんだっていう言い方になります。

だから、わたしたちの信じている神様っていうのは高みに座って、そして自分は影響を受けないで、わたしたちを思い通りに動かそうとされるかたではないし、また、なにかお気に入りのポイントがあって、わたしたちがそのポイントを見つけてそこを突けば、わたしたちに望みの物を出してくださる、なんか自動販売機のようなかたでもないし、一人ひとりの間違いがゆえの苦しみをご自分のこととして担い、一緒に間違っていることに気が付いて正していこう、ってご自分自身の苦しみの中から呼び掛けてくださるかたなんだということです。

なので、わたしたち自身が、そういうイエス様の中に、それが示されている十字架の姿に信頼して、そのイエス様の苦しみの姿はわたしたち一人ひとりのいろんな苦しみの姿でもある、それは元を質せば、一人ひとりのそしてみんなの間違いの結果だか

ら、もう一回それを解きほぐしていく、そのことをイエス様と共に歩いて行くっていう思いを持って、わたしたちも十字架の前に立ち、自分が——他の人が間違っていることは簡単に気が付きます——だけど「自分が間違ってることがあったら教えてください。直しますから」って、簡単に約束できないけど、でも「あなたの助けに信頼して直していきたい。希望しております」、わたしたちの信仰ではそういうような言い方になるのかな、そういう思いで「世の罪を取り除く神の小羊」のいつくしみを願いたいと思います。

一人ひとりの上に、そしてお互いの上に、イエス様の導きを願いながらこのごミサをお捧げしてまいりましょう。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>